

農業の新しい技術

No.623 (平成22年5月)

分類コード 02-05

熊本県農林水産部

「ホワイトゴッデス」より収量・品質が優れる 湿地性カラー「熊育 FC02」の育成

農業研究センター農産園芸研究所花き研究室

担当者：工藤陽史

農業研究センター農産園芸研究所バイオ育種研究室

担当者：飯牟礼和彦

研究のねらい

湿地性カラーは、熊本市や八代市を中心に湧水を活かした栽培が行われている。産地では、多くの圃場で発生している疫病対策として、病気に弱い品種から強い品種への転換を進めてきたが、収量は以前の品種より少なく、減少している。そこで、湿地性カラーの安定生産をめざし、病気に強い多収性系統の育成に取り組む。

研究の成果

1. 疫病汚染圃場で栽培して、疫病に強い「ホワイトゴッデス」より収量が多い「熊育 FC02」を選抜した(図1)。
2. 収穫期は、2月～5月で「ホワイトゴッデス」と同時期である(図1、図2)。
3. 品質は、切り花長及び苞の長さや色の白さは「ホワイトゴッデス」と同程度で、花梗は細い(図2、図3、図4)。

以上の結果から、「熊育 FC02」の栽培で品質の良いカラーを安定生産することができる。

普及上の留意点

1. 水口の水温が夏期(7月～10月)平均23.4℃、冬期(11月～6月)平均19.3℃(半地中型隔離床、コンテナ、掛流し水の水深10cm)の圃場で栽培した結果である。
2. 普及対象地域及び目標面積
熊本市、八代市(既存産地) 2.5 ha
菊池市、阿蘇地域、球磨地域、(隔離床栽培での新規産地) 1.5 ha

[具体的データ]

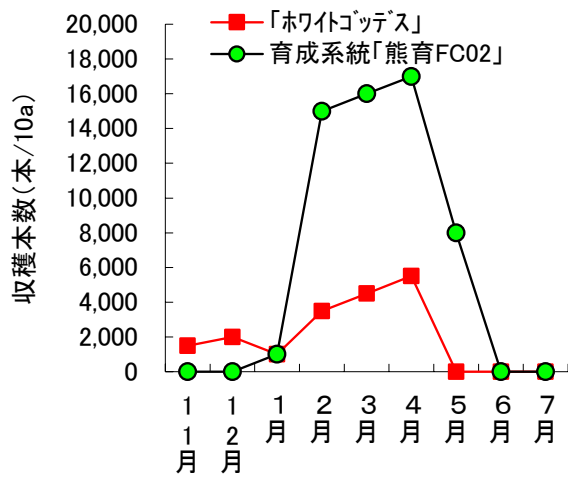


図1 月別の収穫本数の推移

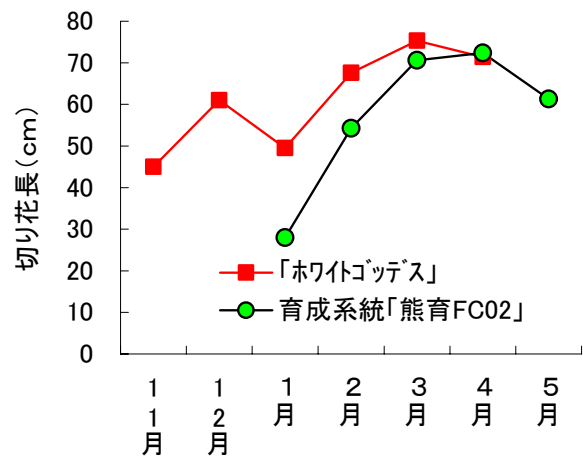


図2 月別の平均切り花長の推移

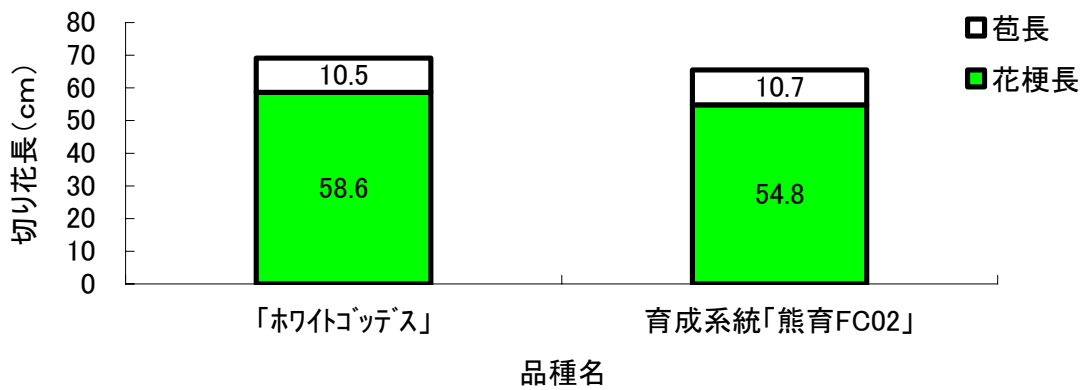


図3 切り花長および苞長

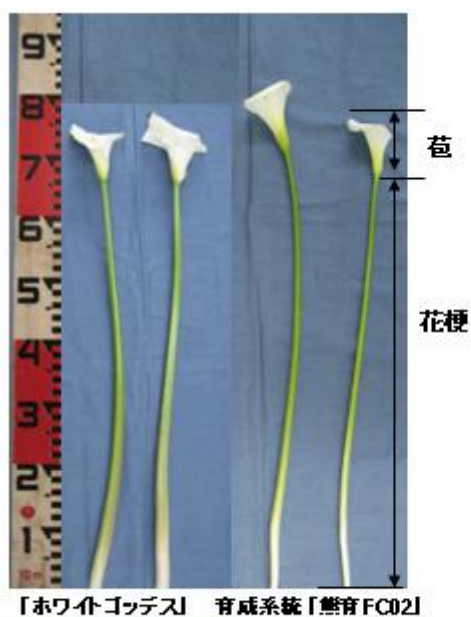


図4 切り花の状況



図5 苞



図6 草姿